



幼児教育保育学科 教授

國本 真吾

KUNIMOTO Shingo

<<専門分野>>

特別ニーズ教育学

障害児教育学

地域教育論、教育福祉論

<<メールアドレス>>

青年期における障害者の生涯学習権保障に関する研究 ～権利論的考察と実践分析～

【権利論的考察～障害があっても学び続けたい～】

知的障害を抱える青年は、同年代の青年や、他の障害に比べて18歳で学校教育を終えるのがわが国の実態である。権利保障においても、障害/障害種による格差が存在するが、本来ならばあらゆる機会にあらゆる場所で、「生涯にわたり学習する権利」が保障されなければならない。

しかし、特別支援学校高等部卒業後の大学・短大への進学率は1%台と低く、18歳以降の権利保障は学校教育の制度下では弱く、社会教育や福祉現場における努力に委ねられている状況である。

表 高等学校・特別支援学校高等部卒業生の進路

	大学等 進学率	専修学校 進学率	就職率
高等学校	55.8%	16.9%	17.4%
特別支援学校	1.7%	0.2%	23.4%
視覚障害	35.0%	2.3%	6.0%
聴覚障害	34.0%	1.9%	34.3%
知的障害	0.4%	0.1%	25.2%
肢体不自由	2.1%	0.2%	4.2%
病弱・身体虚弱	4.8%	4.0%	17.6%

2020年3月卒業生(学校基本調査確定値を基に作成)

障害の有無で進路先が異なる実態＝障害者差別

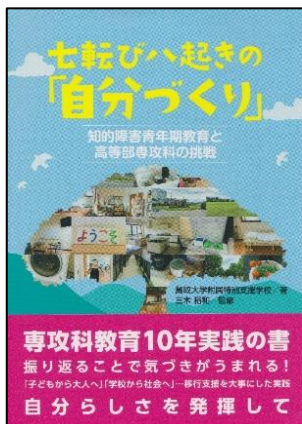
障害種別の違いによって進路先が異なる実態＝障害種別間格差
大学等進学率では、高等学校と知的障害校の間に約140倍の開きが!

このような中、全国的には、地域における障害青年の学びを保障する実践としての「オープンカレッジ」「大学公開講座」や、私立校で試みられている特別支援学校(養護学校)高等部専攻科などが注目されている。これらの実践では、職業自立や社会自立を果たす上での学習の必要性や学習を通じた人格的自立の形成が確認されているが、逆に特別支援教育における高等教育の「代位」の側面があり、中等後教育の在り方を問うものとして今後は検討を重ねなければならない。2017年度から、文部科学省が「特別支援教育の生涯学習化」の政策方針を打ち出したところであり、今後は学校教育だけで完結しない教育の在り方が問われている。

※鳥取大学附属特別支援学校は、国公立の知的障害特別支援学校で、唯一の高等部専攻科(普通科2年制)を設けている。國本は指導助言者として、専攻科の教育実践に関与している。

【参考文献】

國本真吾(2017)「教育年限延長の要求運動と青年期教育の意義」鳥取大学附属特別支援学校『七転び八起き』今井出版



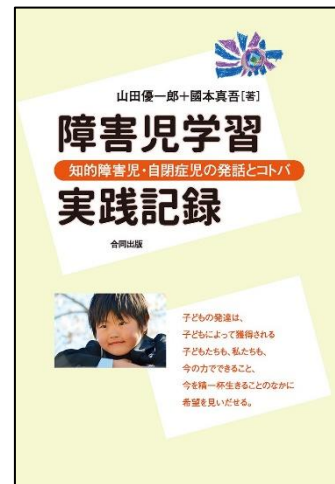
【実践分析～青年期教育の実現と発達保障～】

本研究では、知的障害・発達障害の青年に対して行われる高等教育の「代位」としての実践から、「その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利」(憲法26条)の形式的/実質的保障の検討を行っている。本研究における権利論的考察は権利の形式的保障から、実践分析は実質的保障からのアプローチである。

実践分析においては、特別支援学校高等部専攻科(知的障害対象は国立1、私立9校のみ設置:2021年度)、それに代わる形で障害福祉サービスを活用した「福祉型専攻科」における先行事例の場で学ぶ青年たちの育ちを読み解くとともに、青年期の発達保障に資する青年期教育のあり方を検討している。

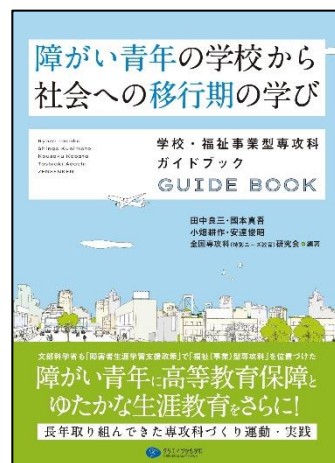
青年期は「第二の誕生」「疾風怒濤の時代」などと呼ばれ、「自分くずし・自分さがし」による「自分づくり」を行う時期である。この時期の発達課題は、人格の再体制化である。再体制化の時期に、就職(就労)をめざした職業教育で学校教育が行われ、青春時代の経験が奪われる形で育ちがはく奪されている。「専攻科」等の18歳以降の学びの場では、そのような奪われた経験を取り戻し、社会へと橋渡しする形で「子どもから大人へ」「学校から社会へ」という二重の移行支援を実現している。人生百年時代と言われる中で、18歳で教育の機会が打ち切られることなく、「障害があるからこそゆっくり丁寧な教育」を保障することが急がれる。

「障害者を締め出す社会は弱くてもろい」(1979、国際障害者年行動計画)と言われてきたが、障害の有無や障害種別にかかわらず、誰もが安心して学び続けることができる社会の実現により、真のインクルーシブ(包摂)社会をめざさなければならない。



【参考文献】

國本真吾(2019)「青年期の教育、学校卒業後の教育をどうするかー『働く』ことから『働きつつける』ための教育に」山田優一郎・國本真吾『障害児学習実践記録』合同出版



【参考文献】

田中良三・國本真吾・小畑耕作・安達俊昭・全国専攻科(特別ニーズ教育)研究会(2021)『障がい青年の学校から社会への移行期の学び』クリエイティブ・ツカモガワ